

令和2年7月27日

令和元年度 特別の教育課程の実施状況等について

岡山県		
学校名	管理機関名	設置者の別
総社市立池田小学校（外1校）	総社市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の公表	学校関係者評価結果の公表
総社市立池田小学校	http://www.iked-es-soja.ed.jp/info/R2gakkouhyouka.pdf	http://www.iked-es-soja.ed.jp/info/R2gakkouhyouka.pdf
総社市立新本小学校	http://www.sinpon-es-soja.ed.jp/info/gakkouhyouka_R1.pdf	http://www.sinpon-es-soja.ed.jp/info/gakkouhyouka_R1.pdf

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

就学前からの英語に関わる取組を生かし、積み上げてきた英語によるコミュニケーション力をさらに伸ばすために、第3、4学年の教育課程に教科「英語」を新設する。教科「英語」の中では、言葉や文化に対する興味・関心を高め、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養うことを目標とする。

1 目標

- (1) 英語の音声や文字に興味をもたせ、外国の行事や習慣への興味・関心を育てる。
- (2) 英語の自然な音声やリズムに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて話したり、初歩的な英語を聞いて大まかな内容を理解したりすることができるようになる。
- (3) アルファベットや簡単な英単語に慣れ親しみ、文字を見ながら発音をまねて読んだり、書き写したりすることができる。

2 内容

A 話すこと・聞くこと

- ・強勢（ストレス）やリズム、抑揚（イントネーション）に注意して聞くこと
- ・身近で簡単な会話や物語を聞いて大まかな内容を理解すること
- ・英語の歌を歌ったり、会話による活動をしたりすること
- ・簡単な英語の質問にこたえること

B 読むこと・書くこと

- ・アルファベットの文字がもつ音をまねること
- ・アルファベットを見ながら書き写すこと
- ・組み合わされたアルファベットの文字がもつ音をまねること
- ・絵や写真に関する簡単な英単語の文字を見ながら発音をまねて読んだり、書き写したりすること

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

岡山市と倉敷市に隣接する総社市は、外国籍住民の割合が高く国際色が豊かである。本市は「多文化共生」のまちづくりを目指し、文化的多様性を尊重し合う風土の醸成に力を入れている。本市で暮らす子どもたちにとって国際交流に欠かせない英語力の向上や、自国・他国の文化を理解し尊重する態度を養う国際理解教育の一層の推進が必要であると考えている。

池田小学校と新本小学校は、幼小中一貫した教育を推進しており、外国語活動を一つの柱と考えている。進んでコミュニケーションを図ろうとする子どもを育てるため外国語活動では、「外国語を使って伝え合う活動の工夫」「外国語に親しむ環境の工夫」という二つの視点で幼小中連携したカリキュラム編成や中学校英語教員による出前授業等の授業実践を進めていく。

(3) 特例の適用開始日

平成 28 年 4 月 1 日

平成 30 年 4 月 1 日（変更）

令和 2 年 4 月 1 日（変更）

(4) 取組の期間

令和 4 年 3 月 31 日

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ・計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

特別の教育課程として、第3、4学年に教科「英語」を新設し、年間の授業日数の3分の2以上をALTが当該校に勤務できるよう配置して、授業だけではなく日常生活においても十分に英語に親しみ、授業の中で学んだ英語が活用できるように指導体制を整えている。また、幼稚園にALTを年間の保育日数の3分の1程度勤務できるよう配置するなど、幼小が「英語」という面で強力に連携しており、就学前から英語に積極的に親しみ、第1、2学年では年間20時間を確保し、聞くこと、話すことの実践を積み重ねることで、第3、4学年での「英語」にスムーズに接続できるよう配慮している。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・実施している
- ・実施していない

<特記事項>

英語に重点的に取り組む学校として市が英語特区に指定し、学校の取組を広く広報すると共に積極的に英語の授業を公開している。参観日に英語の授業を実施したり、校内で英語のイベントを開催し、保護者や地域住民を招いたりするなど、特例校としての取組や成果の様子を伝えている。また、ホームページや学校便りでも活動の様子を積極的に発信している。

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

豊かな人間性を養うこと、また、人間尊重を基盤として様々な教育活動に取り組むことを重視する両校にとって、英語を学校教育における柱の一つに据え、英語の学習を通して、多様性を認めながらコミュニケーション力の向上を図る教育活動は、学校教育目標に迫る上で大きな役割を担う。

また、両校ともに、外部講師を招いての研究授業や終礼の時間を利用したミニ研修等により、教員が授業力を向上させて授業の充実を図っており、「英語の授業が楽しい」「授業がわかりやすい」とする児童が9割を超えているなど、成果につながっている。そういった授業での成果が、授業以外でのALTとの交流や高学年になった際の修学旅行先での外国人との交流に生かされており、本特例により培われた力が主体的に発揮されるなど児童の成長につながっている。

一方で、英語に苦手意識をもつ児童がいたり、少人数の学校であるため授業の中でコミュニケーション活動の相手が限られたりする課題がある。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

両校における特別な教育課程編成は、子どもたちが未来を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指す新学習指導要領の趣旨に沿って実施するものである。

平成31年度実施の全国学力学習状況調査の児童質問紙の問26「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか」に89.5%と高い割合で肯定的回答を示している(県75.1%)。一方、問25「外国の人と友だちになったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか」に対しては、肯定的回答が63.2%(県65.0%)に留まっている。

未来を切り拓くための資質・能力の育成に向けて、国際的視野を身につけるためにも自分たちのことを伝えるという意識と共に、相手のことも知りたいという意識の醸成をバランス良く図ることが今後の課題である。

5. 課題の改善のための取組の方向性

現在、両校の特例申請期間を2年間(令和3年度末まで)延長し、第3、4学年において4技能の習得を目指す取組を継続している。4に示すような課題を踏まえて、今後、人との関わりの中で主体的に言語活動に取り組むことができるよう、学習活動を工夫し、4技能の習得を目指していきたい。